

「復興」名目に子どもたちを被ばくリスクにさらす 危険な動きに警告

「みんなでやっぺ!! きれいな6国」

参加者募集中! 国道6号 清掃ボランティアを実施

東日本大震災の影響により休止していた「清掃ボランティア活動」ですが、この度、関係機関の皆さまのご協力により、再開する運びとなりました。

皆さんの力を借りて浜通り地方をきれいにし、気持ちよく利用して頂ければと思っています。

実施日：平成27年10月10日(土)

総合会場：広野会場(ニッ沼公園)

- 8:00開会式(広野、相馬、浪江)参加者1000名
- 9:00～開会式、作業説明、清掃作業
- 11:00頃までの作業となります。
- 10:00開会式(原相馬、相馬、新地)参加者1000名
- 10:00～開会式、作業説明、清掃作業
- 12:00頃までの作業となります。

※ ①②については、広野会場開会式後、車での移動となります。

【参加予定校】

①新地地区：新地高等学校、地中中学校、相馬地区：相馬高等学校、相馬高等学校、③原相馬地区：原相馬高等学校、相馬工業高等学校、小高商業高等学校、原相馬第一中学校、原相馬第二中学校、原相馬第三中学校、④広野・原相馬地区：原相馬高等学校、双葉相馬高等学校、古たば未来学園、相馬中学校、広野中学校、いわき地区：双葉第一中学校 ※④⑤は大人のみ作業となります。

主催：「みんなでやっぺ!!きれいな6国」実行委員会

共催：NPO法人ハッピーロードネット、(一社)相馬青年会議所、(一社)原相馬青年会議所、(一社)浪江青年会議所、高双葉青年会議所、(公社)いわき青年会議所

【後援(予定)】

国土交通省東北地方整備局、環境省福島環境再生事務所、復興庁福島復興部、福島県、いわき市、相馬市、地中町、新地町、浪江町、双葉町、大原町、富岡町、楡葉町、広野町、双葉地方広域市町村圏組合、(公社)日本青年会議所東北地区協議会、(公社)日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会、いわき中央警察署、双葉警察署、南相馬警察署、相馬警察署、(公社)福島県トラック協会いわき支部、(公社)福島県トラック協会相馬支部、ふるさと未来創造会議【協賛(予定)】

東京電力(株)、東北電力(株)、(財)日本サッカー協会、東日本高速道路(株)、福島民報、福島民友、いわき民報

(問い合わせ) 同 実行委員会 事務局

NPO法人ハッピーロードネット

TEL 0240-23-6172 FAX 0240-23-6171

E-mail: office@happyroad.net



福島第一原発周辺・国道6号線、東電協賛「安全アピール」清掃ルポ

原発事故前の140倍の土壌汚染に無防備で

「被ばくリスクを吸い込む」

「福島で決行された」

「目的はこの場所でのオン・オフの聖火リレー」

清掃活動が行われた国道6号線沿いの福島県「土壌汚染マップ」	
新地町現場	79,400Bq/m ² 0.22μSv/h
道の新そうま	164,000Bq/m ² 0.21μSv/h
道の駅 南相馬	96,300Bq/m ² 0.29μSv/h
浪江町現場	104,000Bq/m ² 0.45μSv/h
富岡町放射線計測所	10,400,000Bq/m ² 5.92μSv/h
富岡町太田交差点	1,490,000Bq/m ² 0.72μSv/h
楡葉町現場	36,400Bq/m ² 0.29μSv/h
広野町ニッ沼	159,000Bq/m ² 0.37μSv/h
いわき市小浜浜港	104,000Bq/m ² 0.12μSv/h

法令により40,000Bq/m²を超過して汚染する恐れがある場所は、放射線管理区域となる。10時間以上の滞在や居住は法律違反!

土壌中の放射能、すべて福島県放射線計測センター(CR)の測定結果。【注】土壌中の放射能は経年変化により変動する。

福島の中高生たちが、福島第一原発のそばを通る国道6号線を清掃するイベントに駆り出された。復興をアピールした大人たちに使われて、子供の健康は守られるのか。

「復興の役にたかないから参加した。6国だからかききれなくなった。除染作業員もみんな作業しなくなる。放射能は気にしていません。結果的に参加してはいません。そう話すのは、10月10日に国道6号線沿いで実施された清掃活動に参加した、相馬県立浪江高等学校の女子生徒、櫻女は浪江町界隈で活動している浪江町の中学生、マユウが手を離れている子供は少数

「目的はこれだから放射線管理区域に警戒しています。そうやって目をうるませた」「みんなでやっぺ!!きれいな6国」と題したこの清掃イベントには、地元の中高生ら約100名を呼び寄せた。しかし、6国といえども、福島第一原発の周辺を毎日10km以上を走る場所がある。女子生徒と話をした浪江の女子高生と話をした「道の駅そうま」は今年度の清掃活動のため、取材は国の請負で実施されている。ふくしま環境政策推進課モーターランド

取材・文 和田秀子(フリーライター)

【163】

「復興」名目に子どもたちを被ばくリスクにさらす 危険な動きに警告

- 「復興」名目に中高生を動員して国道6号線清掃ボランティア活動を実施(2015.10.10)
- 主催者は「みんなでやっぺ!! きれいな6国」実行委員会。日本会議と近いNPO法人ハッピーロードネットや相馬、原町、浪江青年会議所などが共催。
- 後援には国土交通省、環境省、復興庁、福島県、各自治体、警察が名を連ね、協賛には電力会社や福島民報など地元紙も。まさに官民を挙げて子どもたちをダシに使っての「復興」演出。
- 被ばくの危険性を訴える市民団体70団体が中止要請するも、主催者は強行。住民ら1400人、中高生200人が参加した。



「復興」名目に子どもたちを被ばくリスクにさらす 危険な動きに警告

- 「ふくいち周辺環境放射線モニタリングプロジェクト」の小澤洋一氏、ジャーナリストの和田秀子氏（ママレボ通信）らと連携。
- 子どもたちに警告をしながら清掃現場周辺の線量測定、表面汚染測定、土壌サンプリング、ゴミ・軍手・マスクなどのサンプル収集。

国道 6 号線付近のゴミと作業具の汚染

測定はちくりん舎

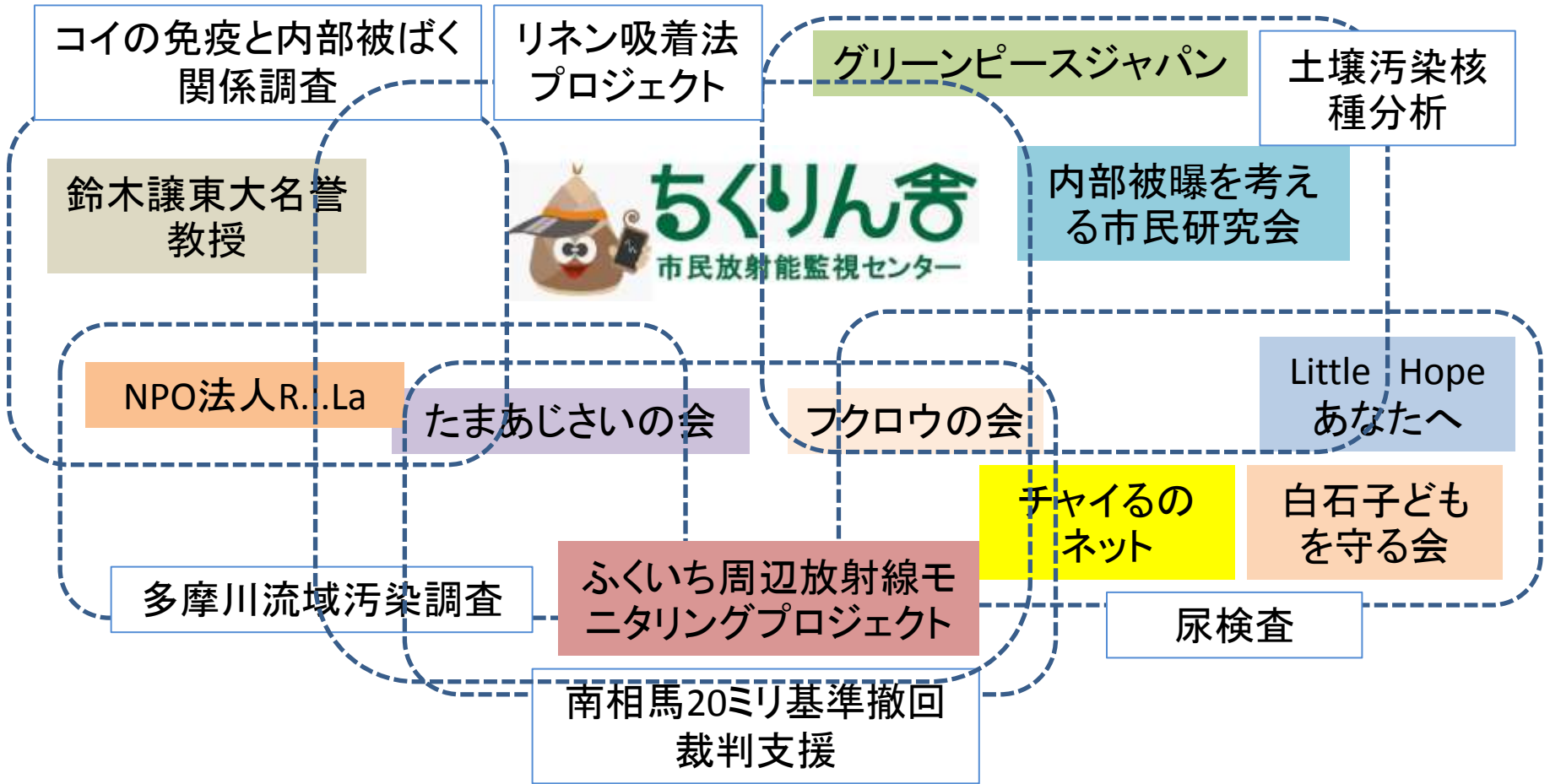
- ちくりん舎はゴミ・軍手・マスクなどの放射能分析。「週刊女性」記事で警告を発した。

測定項目	測定結果 (Bq/Kg)		
	Cs-134	Cs-137	Cs 合計
プラ容器	ND(34)	ND(32)	ND(47)
たばこ箱	ND(31)	87	109 (推定)
ワンカップ瓶	ND(3.1)	ND(3.1)	ND(4.3)
吸い殻	130	470	600
その他ゴミ	170	720	890
軍手	82	339	421
靴カバー	90	360	450
N95 マスク	4	16	20

10月 9,10 日「道の駅」相馬で採取。

軍手、靴カバー、マスクは採取者使用。10月 9-10 日で約 5 時間使用 31

名実ともに「市民放射能監視センター」として役割りを果たせるように。ちくりん舎中心としたネットワークの成長

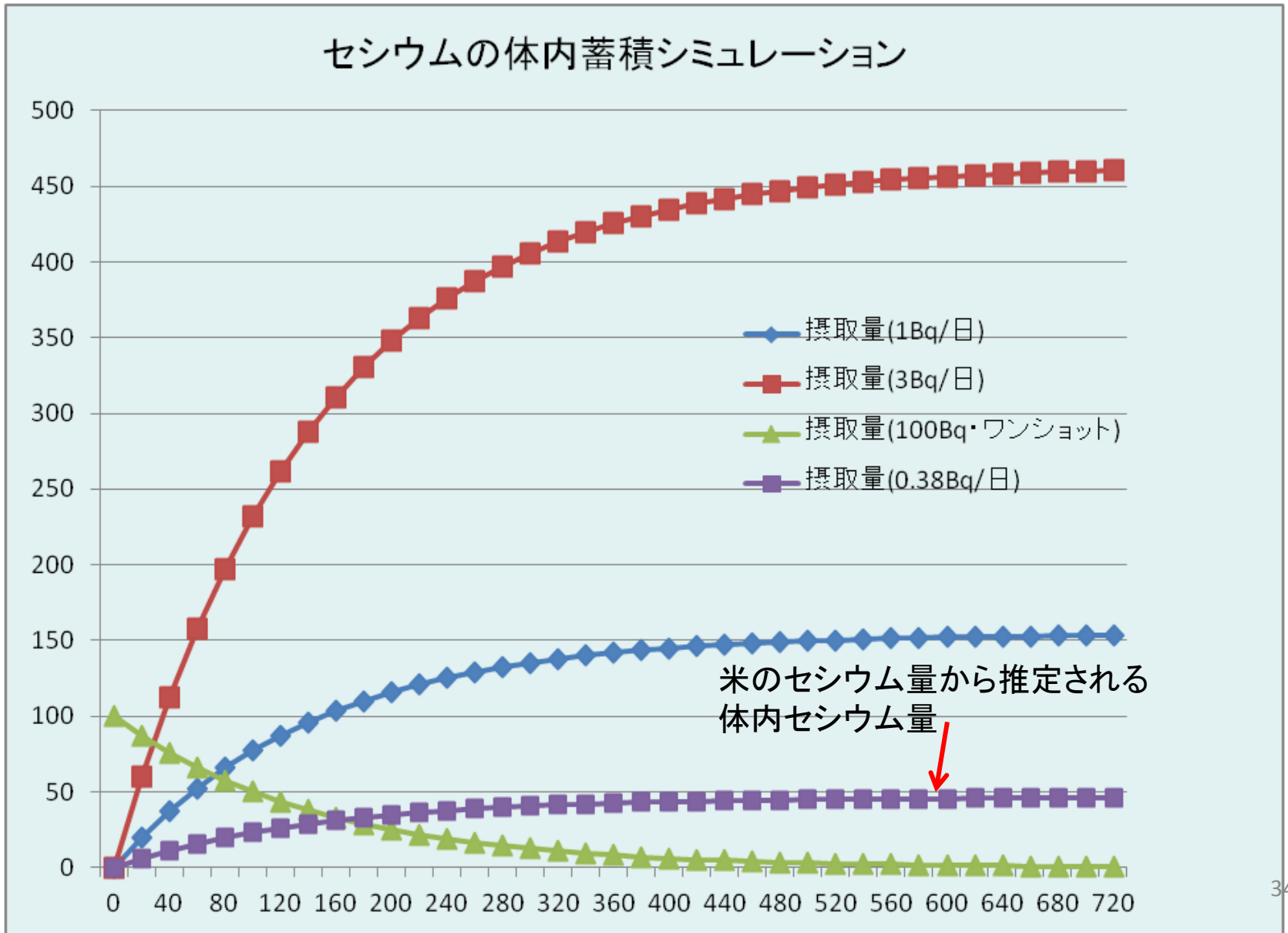


ご清聴ありがとうございました。

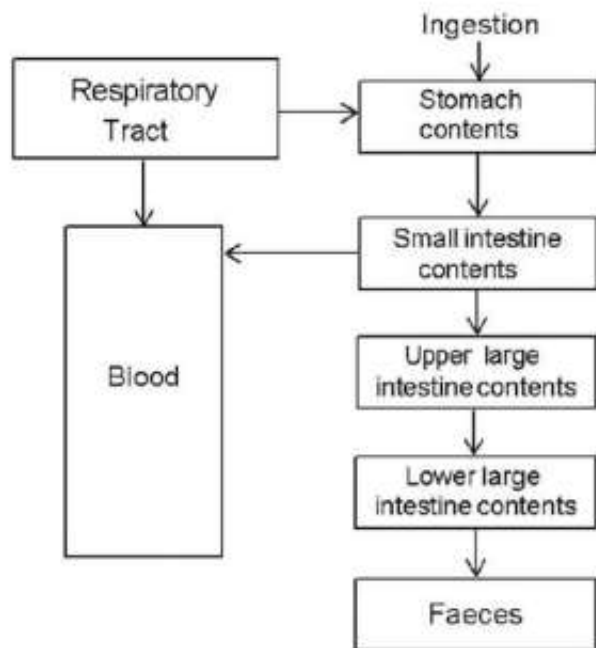


尿から出て来るセシウム量と米の関係

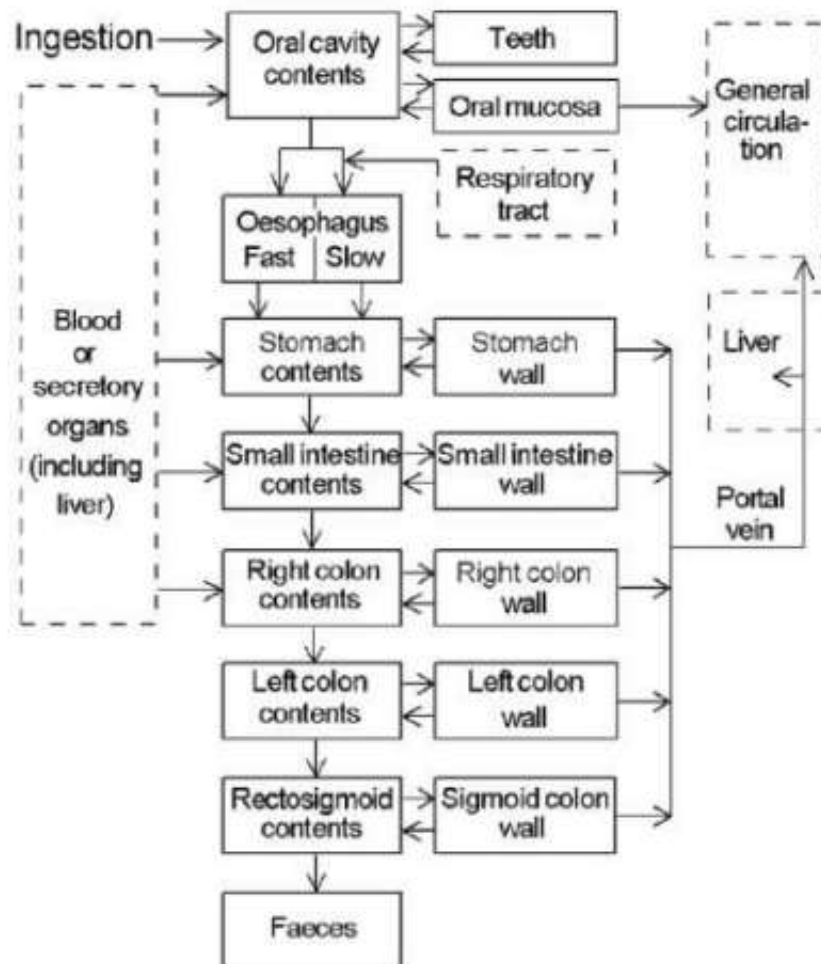
南相馬市に住むFさんの事例



線量評価モデルの開発(4)



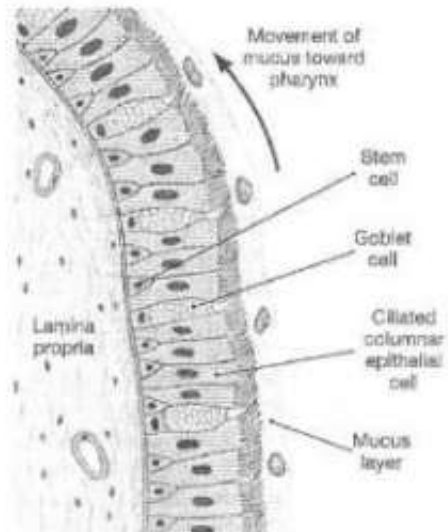
胃腸管モデル
ICRP Publication 30 (1979)



ヒト消化管モデル
ICRP Publication 100 (2006)

線量評価モデルの開発(3)

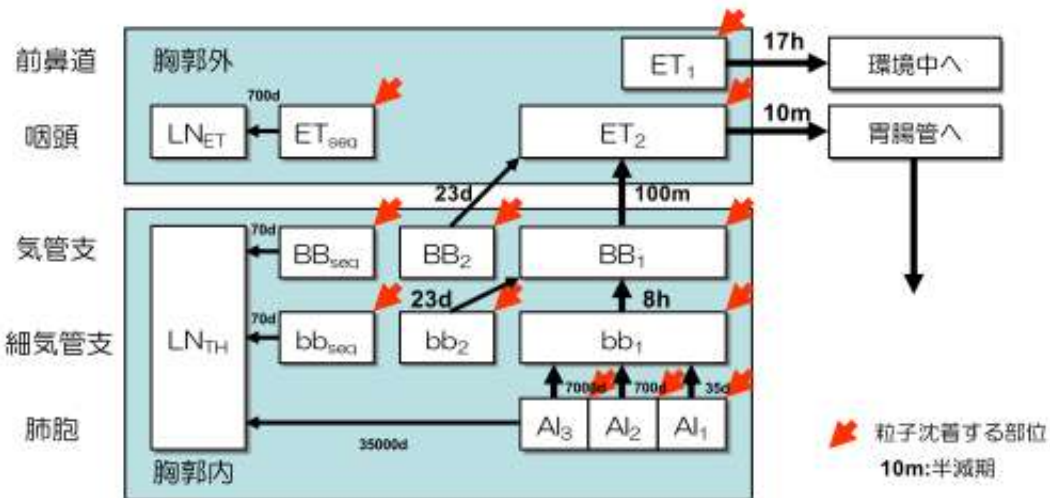
気管支上皮における粘膜輸送



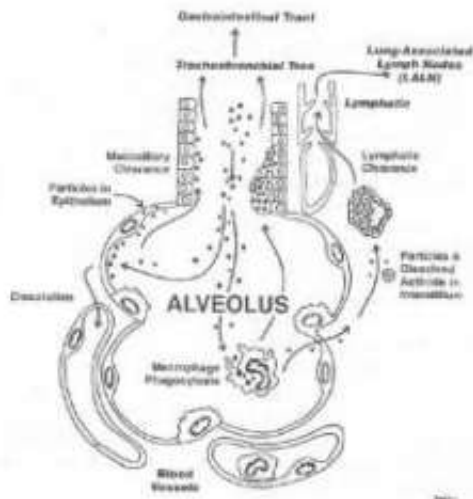
モデル化



ヒト呼吸気道モデル(ICRP Publ.66)



肺胞内部での吸収



モデル化

